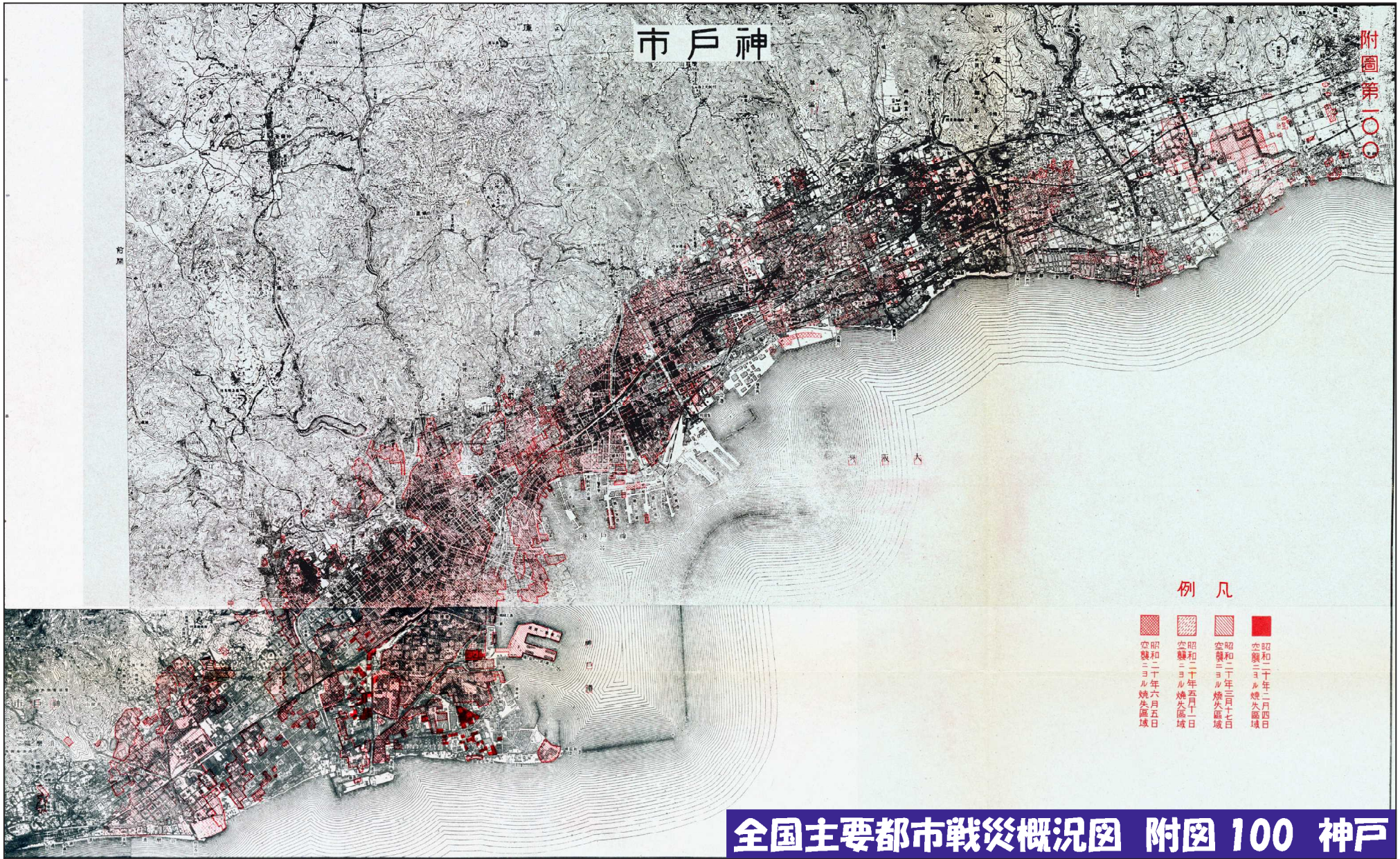


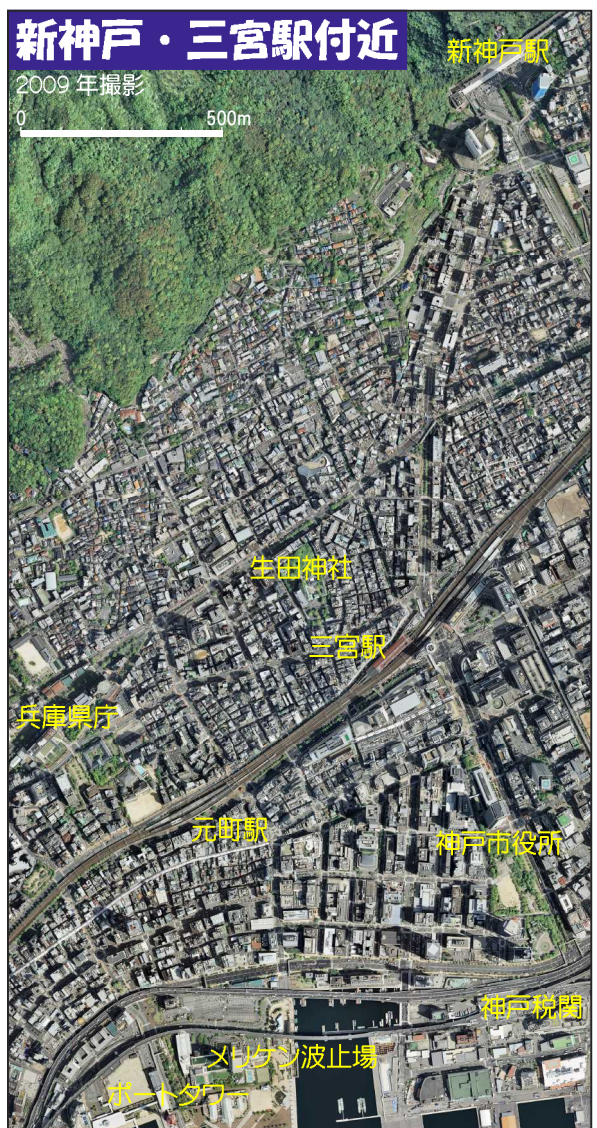
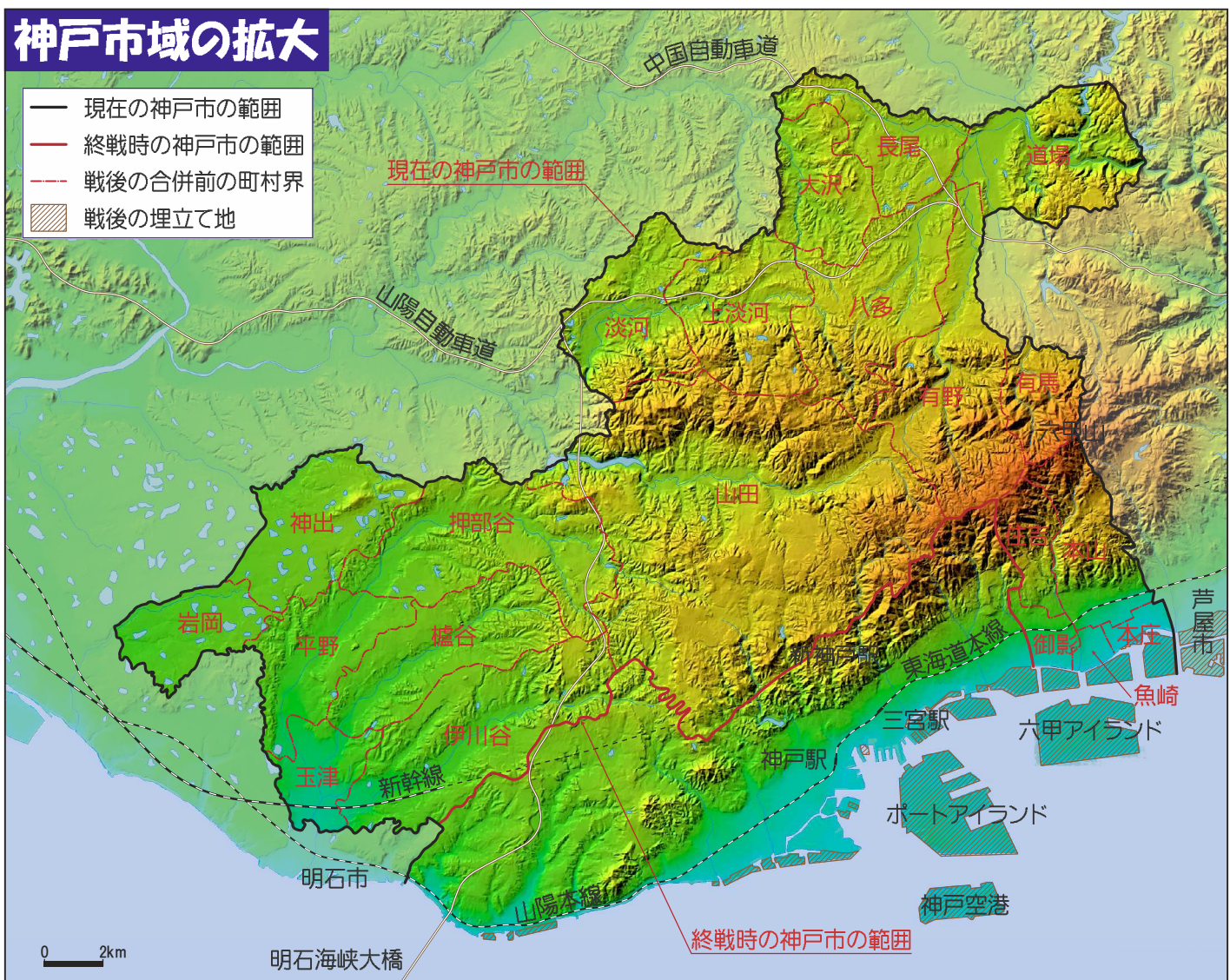
神戸・・・戦災、大震災をのり越え魅力あふれる街の再生

日本本土へ初めての空襲が行われた昭和 17 年（1942 年）4 月 18 日、神戸市にも 3 発の焼夷弾が投下されました。その後、昭和 20 年（1945 年）に入り本格化した空襲で、六甲山系と大阪湾にはさまれた狭小な戦前の旧神戸市街地のおよそ 60 パーセントが罹災しました。神戸市の戦後復興は、戦災都市に指定された東部の五町や六甲山系の北側も含んだ周辺町村との合併と沿岸部の埋立てによる市域の拡大が図られ、商工業・観光・文化都市を兼ね備えた国際的貿易海運都市を目指すこととなりました。

戦後 50 年を経過し順調に発展を続けてきた神戸の街は、平成 7 年（1995 年）1 月 17 日、淡路島北部を震源とする“M7.3”の都市直下型の地震に襲われ大きな被害を受けましたが、明石海峡大橋や神戸空港の開業といった大規模プロジェクトも後押しとなり、急速な復興をとげ、日本を代表する港湾都市のひとつとして発展を続けています。



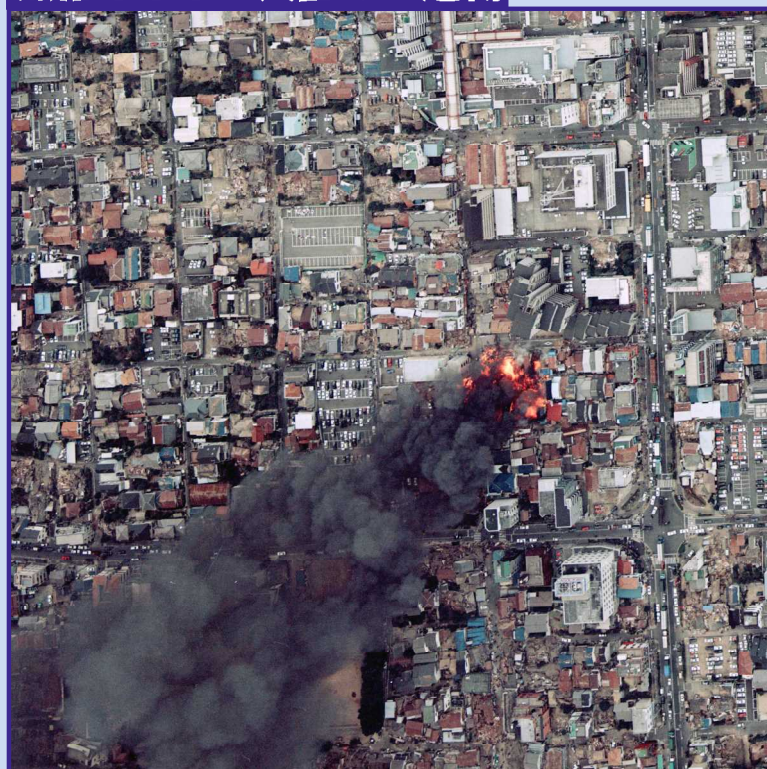
昭和 20 年 12 月 第一復員省作成（国立公文書館所蔵）



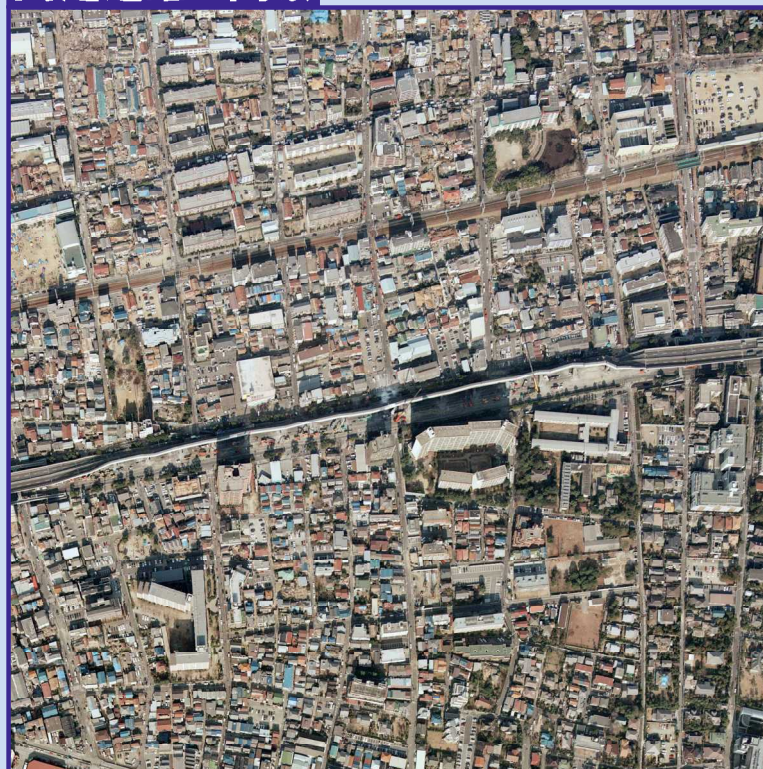
今から 20 年前、戦後半世紀を迎えた神戸を襲った“阪神淡路大震災”

平成 7 年（1995 年）1 月 17 日、淡路島北部の野島断層を震源とする“M7.3”の都市直下型地震が発生し、神戸市や淡路島などで最大震度 7 が確認されました。

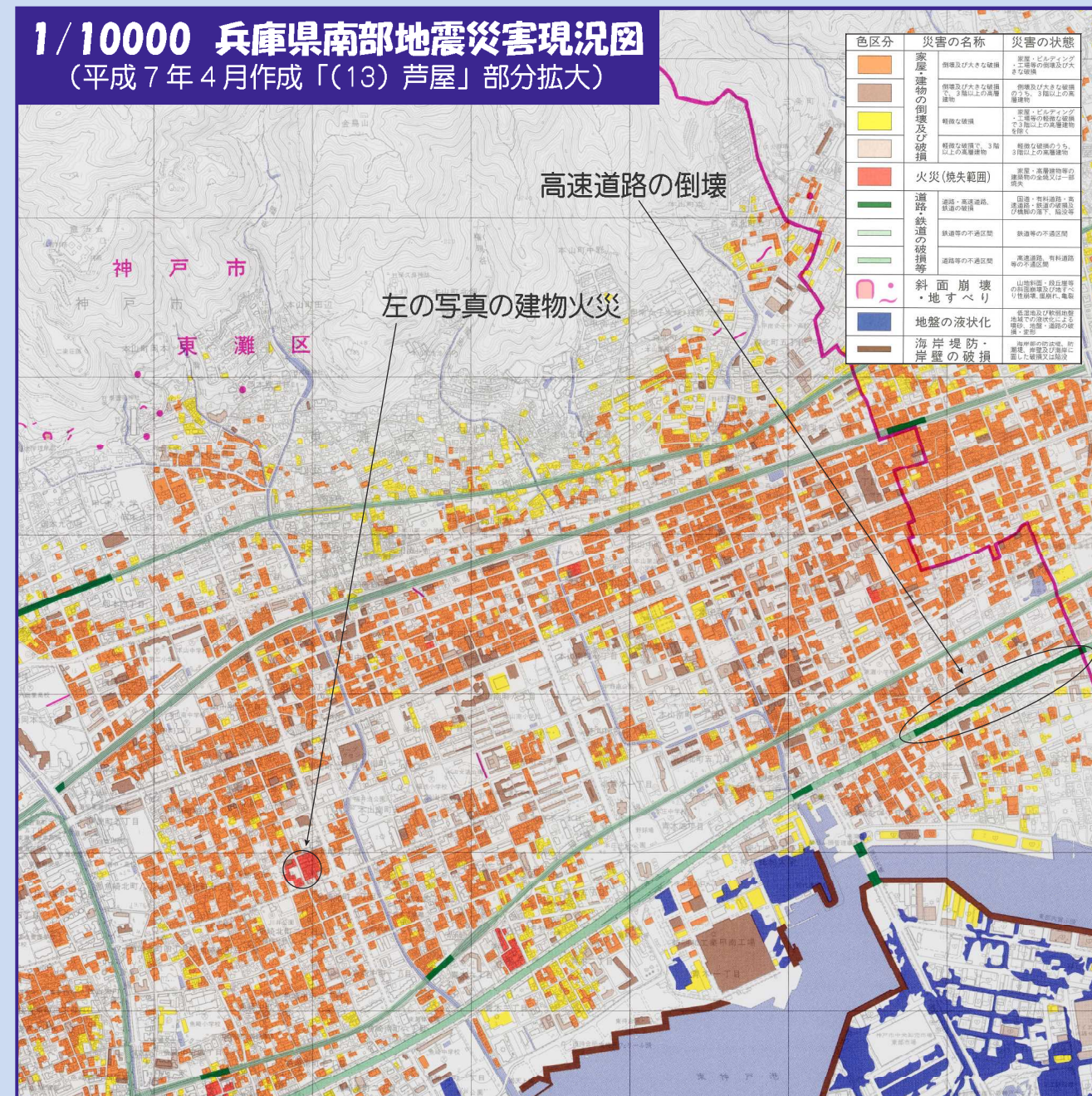
多くの建物の倒壊に加えて、冬の早朝ということもあり多数の箇所を火元とする火災が発生し、約 6400 人の人々の命が失われました。また、電気・ガス・水道・通信施設への被害や、高速道路・鉄道線路の崩壊など、都市機能に大きな障害が生じました。〈地震規模、被害等は地震予知連報告書（気象庁資料）および理科年表による〉



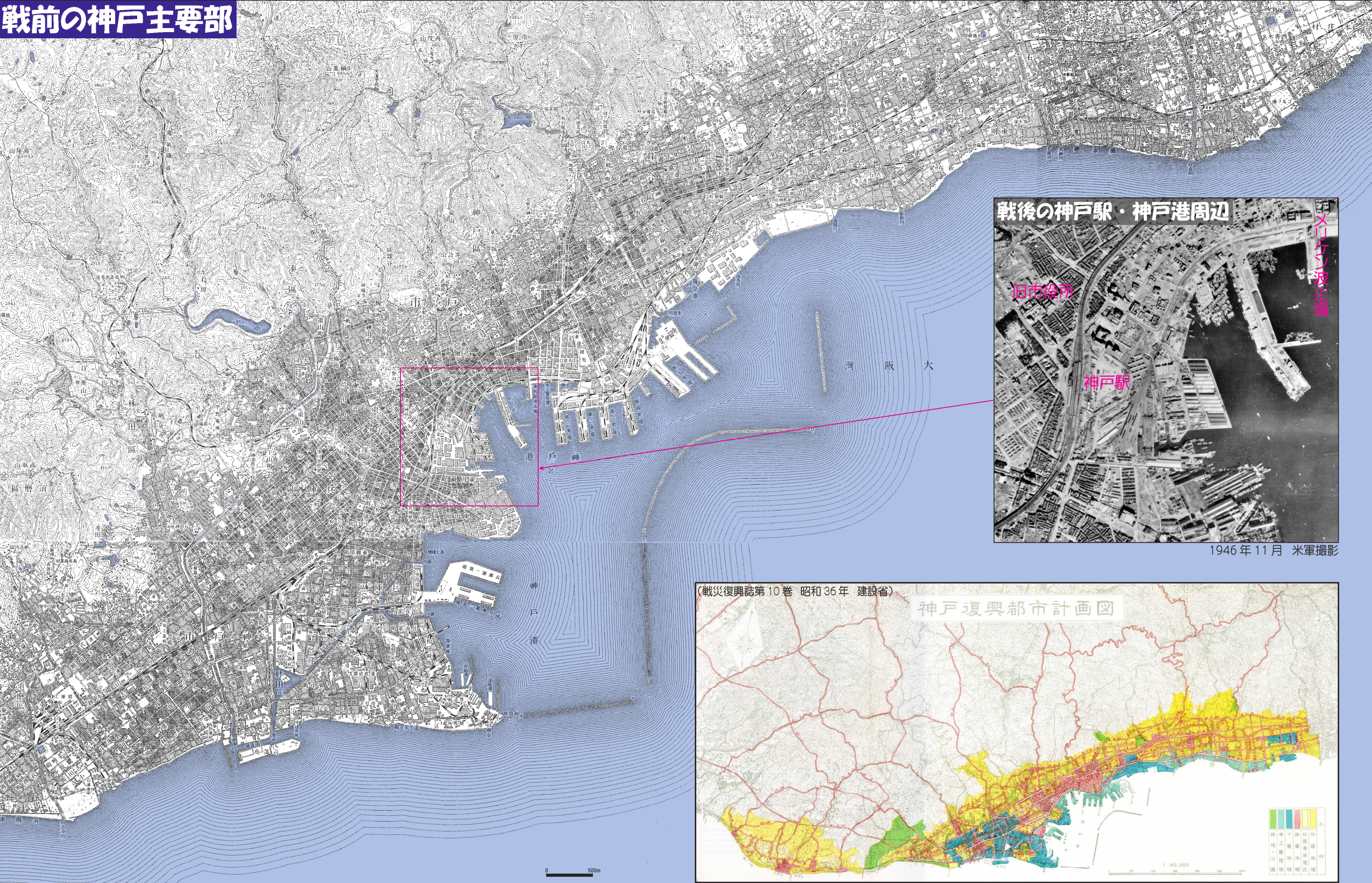
〈東灘区魚崎北町 1月17日 国土地理院撮影〉



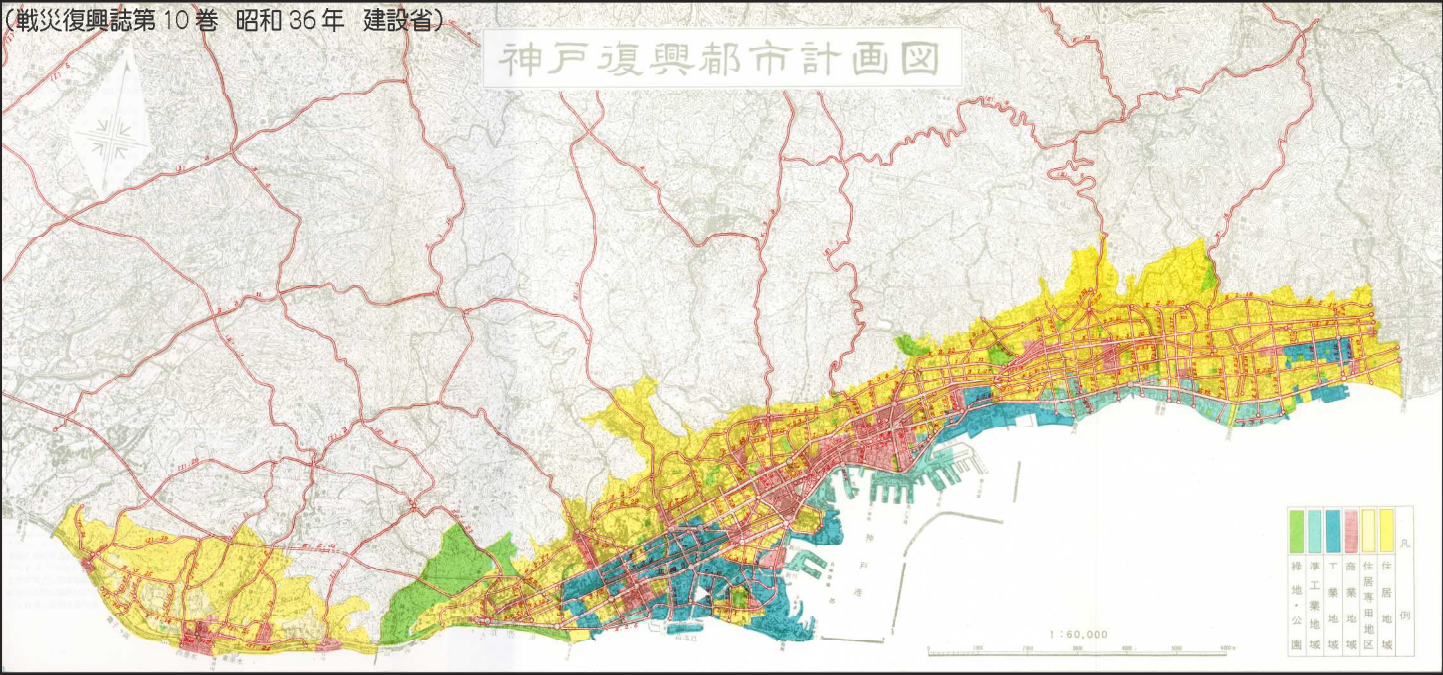
〈東灘区深江南町 1月20日 国土地理院撮影〉



戦前の神戸主要部



1946年11月 米軍撮影



2万5千分1 地形図「西宮（昭和7年要部修正）、神戸首部（昭和10年修正）、神戸南部（昭和7年要部修正）」を拡大（部分）。水表面を水色に着色。



電子地形図 25000 を拡大 (250%)

0 500m

山を崩したり、海を埋め
立てたりして都市が拡大
しています。

現在の神戸主要部